

# 駿河台大学 グランドデザイン 2021

## —駿大ブランドの構築・強化に向けて—

2016年11月26日

学長 吉田恒雄

### 1. はじめに

#### (1) 「駿河台大学グランドデザイン 2021」策定の趣旨

現在、わが国の大学は、2018年問題に象徴されるような今後の18歳人口の急激な減少、2020年度からの導入が予定されている新方式入試への対応、高大接続改革等における大学教育の質的転換の要請に加えて、生産年齢人口減少への対応としてのグローバル人材や高度の実践力を備えた人材の育成も産業界から強く求められています。さらに、地方創生施策の推進において、大学が果たす役割への期待も大きくなっています。

こうした状況を受けて、2012年に策定した「駿河台大学グランドデザイン」の完成年度を迎えた現在、高等教育をめぐる社会状況の変化に対応するとともに、グランドデザインの検証から明らかになった諸課題を点検し、本学の「教育の質の向上」に向けて新たな目標と計画を示し、「駿河台大学グランドデザイン 2021」（以下、グランドデザイン 2021と表記します。）として、2017年度以降の5年間に達成すべきこととしました。折しも今年2016年は本学の建学から30周年に当たります。このグランドデザイン 2021を基点に、これまでの30年間に培ってきた本学の実績をさらに伸展し、本学のミッションを果たします。

#### (2) グランドデザイン 2021の目標：駿大ブランドの構築・強化

駿河台大学の「教育の質の向上」を実現するには、教育内容、教育方法、教育組織、教育環境の維持発展のための基盤の充実が不可欠です。そのためには毎年度の入学定員の確保、収容定員の充足、中途退学者の減少、高い就職率の維持といった課題を克服しなければなりません。この目標に向けて、本学の教学全般にわたる改革・改善を計画的に行い、駿大ブランドを構築することが必要になります。

これらの取組みにより、本学の教育に対する高校生、教育関係者、地域社会の信頼を高め、これをもって志願者増に繋げ、大学運営基盤の安定を図ることをグランドデザイン 2021の目標とします。

### 2. 駿河台大学のミッション

本学は、建学の理念である「愛情教育」に基づき、埼玉県西部の地域社会に根ざした大学として、以下のミッションを果たします。

#### ① 地域の中核的人材の育成

本学は、グローバル化の著しい現代社会における地域社会の諸活動の中で中核的

役割を担う人材を育成することによって、高等教育機関としての責務を果たします。

② 地域の発展への貢献

本学は、地域社会の諸課題を調査研究し、その成果を還元することにより、地域社会の発展に貢献します。

③ 地域の活性化への貢献

本学は、「地域の知」の核として、地域に学びの機会を提供することにより、地域社会の活性化に貢献します。

3. 駿河台大学が目指す大学像：「駿大ブランド 5つの力」

本学は、上記のミッションを果たすために、本学が培ってきた「強み」を活かし、現在の教育活動、研究活動、地域貢献活動をさらに発展させ、駿大ブランドを構築・強化します。

(1) 「教育力」の駿河台大学：きめ細かい教育

駿台予備学校を始めとする学校法人駿河台学園が永年にわたり形成してきた教育理念、教育情報、教育方法等を活用し、駿河台学園との緊密な連携のもとに、「きめ細かい」教育を行います。

(2) 「就業力」の駿河台大学：目配りの行き届いた就職支援

教職員が一体となった、目配りの行き届いた就職活動支援により、学生ひとりひとりの個性と意向にあった就職を実現します。

(3) 「学生支援力」の駿河台大学：高い学生満足度

明るく美しいキャンパスで、学生が自己肯定感をもって学習し、学生生活に打ち込めるよう、学生の主体的な活動を支援し、学生の居場所を充実し、経済的支援を行います。

(4) 「地域力」の駿河台大学：地域との協働

「地域を学ぶ」、「地域で学ぶ」、「地域から学ぶ」、をテーマに、自治体や企業、団体、市民の協力を得て実践的な教育を行い、「駿河台大学社会人基礎力」を身に付けます。あわせて、生涯教育の機会提供により地域貢献に努めます。

(5) 「研究力」の駿河台大学：研究成果の地域還元

教員のもつ高度の専門性を活かし、優れた研究成果を地域社会に還元します。

4. 駿大ブランド構築・強化のための具体的取組み

(1) 駿大ブランドとしての「愛情教育」

本学は、「愛情教育」の理念に基づき、「ひとりひとりの学生をありのままにみつめ、ひとりひとりの夢とその歩みを支援し、自立へと促す教育」を実践します（「駿河台大学憲章」より）。

(2) 「教育力」の駿河台大学：きめ細かい教育

本学の教育は、上記のミッション「地域の中核的人材の育成」に向けて、「社会人基礎

力」(注)及び専門的知識・技能の活用力を身につけること目標に、以下の取組みを行います。

① 新カリキュラムに基づく教育の実施

教育目標の実現に向けて、2017年度施行の新カリキュラムに基づく教育を確実に実施します。

② 3ポリシーに基づく教育の実践

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)、学生受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)に基づく教育を実践します。

③ 教育成果の把握、分析に基づく教育改善

個々の授業の教育成果を図る指標や方法を開発・普及し、各授業が目標に沿った成果を達成しているかどうかを検証します。さらに、PDCAサイクルにより、カリキュラムの適切性を点検評価し、教育改善を図ります。

④ 主体的学びの推進

学生が主体的に学び、幅広い教養、社会人基礎力及び専門基礎学力を習得するのに適した授業方法(アクティブ・ラーニング)を全教員が共有し、「教育力」を向上させます。あわせて、学習時間確保の方策を検討します。

⑤ 学習支援の強化

学習相談等を通じて学生の学習を組織的に支援します。

⑥ 初年次教育の充実

入学準備セミナーの全学部実施、導入教育の充実、補習授業、学習支援の実施等により、1年次生への教育をさらに積極的に行います。

⑦ グローバル教育の推進

アクティブ・ラーニングや補習授業を含めた授業等により、外国語能力の向上を図ります。駿台甲府高等学校、駿台グループ専門学校、優良日本語学校との連携により外国人留学生の入学を促進するとともに、外国人留学生への生活支援の充実、留学生と日本人学生の交流を図ります。また、外国大学への留学を促進するため、留学情報の提供、外国語能力の向上、外国語検定試験受験指導等の支援を強化します。

⑧ スポーツ教育の推進

強化すべきクラブを重点化して支援します。2020年東京オリンピック・パラリンピックに対して、大学として、地域と連携して積極的に関与します。さらに、2020年以降のスポーツ振興のあり方を検討します。

⑨ 大学院研究科組織の点検

大学院における人材育成の社会的要請に対応して、科目編成、授業内容、授業方法のみならず、大学院組織のあり方の検討を開始します。

⑩ 教育環境の整備

学生の主体的学びを支援するため、授業とメディアセンターとの連携を強化すると

ともに、「ラーニング・コモンズ」の整備・活用、3404 教室の有効利用を図ります。さらに、アクティブ・ラーニングを幅広く行うことができるよう教室を改修します。

(3) 「就業力」の駿河台大学：目配りの行き届いた就職支援

① キャリア教育の充実

学生が自らの将来像を自覚的に捉えキャリア形成できるよう、1年次から体系的かつ多様なキャリア教育を推進します。

② 就職活動支援の強化

学生の希望や将来のキャリア形成の意向を十分に把握し、個々の学生に適した就職を教職員の協働により支援します。

③ 資格試験、公務員試験受験指導の推進

学生の就職に資する資格試験受験や公務員志望の学生に対する指導を積極的かつ組織的に進めます。

④ 留学生の就職支援の強化

キャリアセンターとグローバル教育センター及び学生支援課との連携を密にし、留学生の就職活動をきめ細かく支援します。

⑤ 国際インターンシップの推進

東南アジアを中心に、国際インターンシップの実施に向け、体制を整備します。

(4) 「学生支援力」の駿河台大学：高い学生満足度

① 学生の主体的活動の支援

学生が主体的に大学生活を過ごすことができるよう、クラブ活動、ボランティア活動や学生の自主的活動の企画・実施を積極的に支援します。

② 学生の居場所の改善・充実

学生が大学生活を通じて自己肯定感を育み、自己実現を図れる場所、仲間と楽しく充実した時間を過ごすことのできるスペース等、アメニティの整備・改善をさらに進めます。

③ 中途退学者の減少

i) 経済的支援の充実

給付型奨学金制度を充実し、経済的理由による中途退学の防止に向けた経済的支援を充実します。

ii) 健康上のサポートを必要とする学生に対する支援

健康相談室におけるカウンセリングや保健指導等を強化し、健康上のサポートを必要とする学生が学業に専念できるよう支援します。

iii) 中途退学者等のデータの分析

中途退学者、休学学生、長期欠席学生等のデータを収集・分析し、その成果を活用して中途退学を防止します。

iv) 1・2年次生に対する支援

1年次生について、クラス担当教員（FA）と職員（CA）が協働して、学生支援課

と連携した支援をさらに充実します。2年次生に対するCAの活用については、中途退学の原因分析等を勘案して支援のあり方を検討します。

④ 障がいをもつ学生への支援の充実

発達障がいを含め、障がいをもつ学生に対する支援を適切かつ組織的に行います。

(5) 「地域力」の駿河台大学：地域との協働

① 「地域科目群」の活用

2017年度施行のカリキュラムにおける「地域科目群」を活用した教育を行います。

② 自治体・企業等と連携した教育の多面的展開

自治体、企業等と締結した協定に基づいて開講している寄付講座をさらに発展させ、地域科目の充実及び各学部の専門分野における実践的な教育プログラムの導入を図ります。

③ 生涯教育の充実

現在の「喜樂学」をはじめ、多様な公開講座を開設し、地域における生涯教育を充実します。

④ 地域に関する研究の推進

「知の拠点」として、地域が抱える課題の解決に向けて、地域と共同して調査研究を行います。

⑤ 高大連携授業の充実

連携先高校の意向を踏まえ、高校生がさまざまな学びを経験することができるよう、高大連携授業を見直します。

(6) 「研究力」の駿河台大学：研究成果の地域還元

① 研究環境の改善

教員の研究活動を活性化するため、委員会業務等の学内業務を見直し、研究時間を確保できる環境を整備します。

② 研究費制度の活用

個人研究費制度を見直し、研究費を適切に配分することにより、研究活動に積極的に取り組む教員が十分に研究できるようにします。あわせて、特別研究費、教育研究助成費、出版助成費についても、研究活動の活性化に繋がるよう見直します。

③ 教員の国際交流の推進

海外の大学との教員の人事交流に関する協定の締結に向けて、準備を進めます。

④ 研究成果の地域還元

本学教員による研究成果を、シンポジウムや公開講座等を通じて地域に提供し、地域の活性化に貢献します。

⑤ 外部資金獲得への支援

文部科学省科学研究費補助等の外部資金の獲得を奨励し、申請に関する情報の提供、申請手続きの支援を充実します。

## 5. 学生募集力の強化

### (1) 駿大ブランドの充実と活用

3で述べた駿大ブランドをもって「教育の質の向上」を図り、高校生、教育関係者、地域社会の信頼を獲得することにより、駿河台大学での学びを希望する志願者を増やし、入学定員及び収容定員の確保に繋がります。

### (2) 入試データの分析と活用

志願者動向をはじめとする入試データを、IR 実施委員会及び入試広報部を通じて分析し、志願者確保の資料として活用します。

### (3) 効果的な入試広報活動の展開

これまでの広報手段をさらに検証し、各種媒体の特性を見極め、時宜を得た広報活動を展開します。

### (4) 秋学期入学制度の創設

2017年度のカリキュラム施行にあわせて、主に外国人留学生を対象に秋学期入学を可能とするよう入試制度を一部見直します。

### (5) 新方式入試への対応

高大接続改革における入試制度の改革に対応するため、学力の3要素を的確に判定できる制度を導入し、受験生が自己の能力を適切にアピールできるようにする機会を与える等、同改革の趣旨及び本学のアドミッション・ポリシーに合致するよう入試方法を見直し、新方式入試を実施します。

## 6. 学部・学科の再編

社会の動向、全国及び本学の受験生の志願状況等について、IR 実施委員会および入試広報課の分析に基づき、コース制の再編を行うとともに、新たに設置すべき学部・学科の検討を行い、可能な限り早期に新学部・学科を創設します。

## 7. 教学ガバナンスの推進

本学のミッションを果たし、駿大ブランドを構築・強化するため、以下の取組みを行い、教学ガバナンスを推進します。

### (1) 自己点検評価の実施及び外部評価の受審

本学が高等教育機関としての責務を果たし、「大学の内部質保証」を確実なものとするため、改革の方向性、内容、方法、成果等を、外部関係者の協力を得ながら点検します。また、定期的に外部機関による評価を受審します。これらの点検作業をもとに、教学全般にわたりPDCAサイクルによる改善を継続します。

### (2) 適切な情報公開

本学の教学に関する取組み状況を、大学ホームページや「大学ポートレート」を通じ

て公開し、社会に適切に説明する等、本学の情報公開を促進します。あわせて公表内容を定期的に点検します。これにより、学生、父母、志願者、高等学校関係者、企業、団体、地域社会に対して本学の取組みに関し、十分な理解と協力を得ます。

### (3) 「教職協働」の推進

本学が取り組むべきプロジェクトについて、その内容に応じて、教員、職員それぞれが「委員」として参画し、協働してプロジェクトを企画・実施します。

### (4) 効率的な教学運営体制の確立

#### ①委員会組織の見直し

教職員が教育・研究・学生支援等の業務を十分に遂行するとともに、学内業務を効率化するために、委員会の組織・内容・所管事項の見直しや委員会の整理統合を継続して行います。

#### ②教育力の組織的向上に向けた FD・SD の推進

全学及び学部・センターの研修（FD・SD）を組織的・計画的に運営し、全教職員がこれに出席し、教学改革の意義、内容、方向性、成果等を共有し、改善に取り組む意識、知識及びスキルを高めます。

### (5) 教員評価制度の整備

教育、研究、管理運営、社会貢献を積極的に行っている教員の実績を評価し、本学の改善を促進するために、教員評価制度を整備・実施します。

### (6) グランドデザイン 2021 による改革の実施

① 学部、大学院研究科及び共通教育センター等並びに事務部門のアクションプランを通じて、グランドデザイン 2021 に掲げられた改善項目を P D C A サイクルにより確実に実現します。

② グランドデザイン 2021 の開始後 3 年までの成果をもとに、その改善状況を点検し、必要に応じて修正を加えます。

## 8. おわりに

本学が高等教育機関としての役割を的確に果たすためには、地域社会の支援を得ながら、教職員一体となって「教育の質の向上」に取り組んでいくことが求められます。教職員が本学の課題に対する認識を共有し、それぞれの責務を自覚して着実に業務を遂行することが駿大ブランドの構築・強化につながり、本学のミッションが実現されると確信し、グランドデザイン 2021 の達成に向けて取り組みます。

注) 駿河台大学社会人基礎力は、以下の 5 つの力から構成されています。

#### (1)基礎的な力

文章を適切に読み解くと同時に、論理的で、かつわかりやすい文章を書くことができます。さらに、目的に向けて情報源と情報収集方法を適切に選択し、必要な情報を集めることができます。

## (2)考える力

さまざまな角度から物事をみつめ、広い視野から筋道を立てて考えることができます。また、相手の話す内容、あるいは自分や相手の置かれている状況を適切に理解しながら、既存の枠組みを超えた新たなアイデアを生み出すことができます。

## (3)行動に移す力

目標に向かって行動を起こすことの価値を理解した上で、自ら行動を起こし、必要に応じて課題に柔軟に対応しながら、やりきることができます。

## (4)協働する力

自分が相手に伝えたい内容をわかりやすく表現し、伝えるとともに、相手の要求を適切に理解して、それに応じたり、自分の意見を適切に主張したりすることによって、良好な人間関係を構築することができます。さらに、集団の中で自分や周囲の役割を適切に理解し、互いに連携・協力して物事を行うことができます。

## (5)総合的な力

自分や自分の身のまわり、あるいは社会のあるべき姿と現状を適切に認識し、問題意識を持つことができます。加えて、実現可能な目標を設定し、そこに至る方策を立てるなど問題解決に向けての努力を続けることができます。